

◎ 3 学 年

学級担任	機械工学科	北住 順一
	電気情報工学科	西谷 郁夫
	電子制御工学科	白井 みゆき
	生物応用化学科	勝浦 創
	材料工学科	松英 達也

1. 基本方針

第3学年が高専生活の中期にあたることをふまえて、専門知識を学ぶ上で、将来への具体的な目標をもてるよう、指導していく。とりわけ、本年度の学校運営重点推進目標に従い、学習支援、生活指導に重点を置いて、学科間で統一性のとれた指導を行う。

担任、副担任が協力して、学習支援や生活指導を可能な限り努力して実施してきた。学科間においても研修旅行や長期休業前の指導、保護者懇談会についてなど適時メールなどで情報交換を行い、統一性を保った指導を行うことができた。

2. 平成17年度実施計画

以下の学年共通目標を定めて指導を実施する。

2. 1. 朝のショートホームルーム(SHR)は、連絡、教室の清掃状態の点検、日直の確認等を実施して、学生の問題点の早期把握と1限目からしっかりと授業に向かう姿勢を育てることを目的とする。これが意義あるものとなるよう、副担任と協力して指導をする。遅刻する学生がないよう、家庭連絡や協力をお願いをする。

担任、副担任が協力して朝のSHRの実施により1時間目の遅刻をかなり減少させることができ、欠席者の家庭連絡も迅速にできた。また学生の状態を把握するとともに声をかけることでより肌理の細かな指導ができた。ただし、SHR自体の遅刻に関しては家庭の協力などを仰いだが電子制御工学科を除いて減少させることができなかった。

2. 2. 教室をはじめ、環境の美化につとめる。

特別活動の時間を利用し、全学科連携して、校内環境美化活動を行う。

特別活動の時間を利用し、校内環境美化活動を行った。また教室美化についてはクラス全員に注意を促し、常にきれいな教室であることを心掛けた。

2. 3. 学外研修を意義あるものにするために、情報交換、実施方法の検討等を行なう。

メールで情報交換、実施方法の検討を行い意義のある研修旅行が実施できた。材料工学科を除いて、工場見学や発電所見学を実施し職業意識を涵養し4年次でのインターンシップへの事前学習ができた。材料工学科では学年にまたがる学生間の相互連帯意識を高めることを目的とし2、3年生が合同で実施し効果的な研修旅行が実施できた。

2. 4. 担任・副担任会を結成し、指導体制の統一化や情報交換を行う。
連絡会や電子メールでの情報交換を活発に行ない、各学科での行事実施状況、学習・生活指導状況、問題点など議論する。
なお、今年度から90分授業や副担任制度が実施されるので、授業の様子や副担任の仕事分担等も併せて議論する。

担任、副担任間の連絡はメールや電話及びSHRの前後の時間を利用して行い、指導についての相談、情報交換を行った。

2. 5. 学生や家庭との懇談を行うなど、成績不振者、進路変更者について早期から対応し、指導を行う。

学生との懇談を適宜実施した。保護者との懇談を前後期一回ずつ行うことにより、進路変更などの情報を早めに収集し対応することができた。成績不振者や進路変更者については適宜学生、保護者と懇談することで早期から対応できた。

2. 6. 盗難防止対策として、教室の整理整頓につとめ、個々人の持ち物・貴重品の管理をきちんと行うよう指導する。

毎週の清掃指導を付き添って行い、整理整頓を励行し個々人の持ち物・貴重品の管理をきちんと行うよう指導した。その結果生物応用化学科を除く学科では盗難防止対策ができた。生物応用化学科では実験の時間及び体育の時間に4件盗難があり貴重品の管理体制に問題を残した。

○総括的な評価と課題

SHR については学生の指導に大いに役に立った。特に担任の目は成績不振者に集中しがちであるが、SHR を通じてすべての学生に目を向けることができた。しかし、常習的な遅刻者に対しては電子制御工学科を除いて十分な対策が打ち出せなかった。学校全体が一丸となった1年次からの継続した生活指導と保護者への協力を強く要請するための教務的な根拠(単位化など)を検討する必要があると思われる。

担任、副担任及び担任間の連絡はメールなどを通してかなりでき、特に長期休業前の指導や研修旅行など学科間の連携が大切なことについては十分機能したと思われる。これからもこのような体制を続けていくことが大切だと思う。

保護者との懇談については2回目の保護者懇談会も2年目をむかえ保護者間に定着し出席率も高く、ご家庭との情報交換もよりよくなってきていると思われる。今後は保護者が欲しい情報を的確に提供できるよう情報交換の質の向上について検討する必要があると思われる。